

# 来週の『売り物』、記事はこれ



2016年2月19日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## ホームを求めて 奥田知志さんの25年

21日(日)



北九州市で約25年間、ホームレスの自立支援に取り組む男性がいます。牧師でNPO法人理事長の奥田知志さん(52)＝写真。 「ごく普通の温かい家庭」で育ち、中学生の時に洗礼を受けました。教師を志望して関西学院大に進んだ1982年春、先輩に誘われて大阪・あいりん地域に入り、衝撃を受けます。日雇い労働者の支援活動に携わる中で、医者にかかれず、帰る家もなく雨ざらしで死んだ人を見ました。「神様はどこにおんねん? どこかにおってもらわないと困る」。漠然と頭の片隅にあった牧師になるという考えが浮かび、生涯をかけての神様探しが始まります。赴任した北九州市でNPOを設立、これまでに2000人以上のホームレスらを路上からアパート生活などへ自立させました。心のよりどころとなる「ホーム」作りにこだわる奥田さんの足跡を追いました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

## プロ野球のスーパースターはなぜ、道を誤ったのか?

特別寄稿・元西武担当スポニチ記者が間近で見た清原和博容疑者

夕刊2面特集ワイド 23日(火)



プロ野球通算525本塁打を放った偉大なスラッガーの清原和博容疑者が、覚せい剤取締法違反(所持)容疑で逮捕されたニュースは世間に大きな衝撃を与えました。高校野球の名門・PL学園時代は春夏の甲子園で優勝、準優勝各2回。プロ入り後は西武、巨人で10回のリーグ優勝、8回の日本一に貢献しました。そんな偉大な選手が道を誤ったのはなぜなのでしょう。清原容疑者の西武時代に担当記者だった落合紳哉・スポーツニッポン新聞社特別編集委員に寄稿してもらいました。

## 人ごとでない感染症の恐怖

### ジカ熱を水際で防げ!

オピニオン面 [そこが聞きたい] 24日(水)

ブラジルなどで猛威をふるうジカ熱。妊婦が感染すると先天的に脳の発達が不十分な赤ちゃんが生まれる可能性があることから、世界保健機関は「緊急事態」を宣言して、国際的な予防対策を呼びかけています。日本でウイルスを媒介するヒトスジシマカ＝写真＝の活動時期は5～10月。今できる対策はあるのでしょうか。専門医、国際感染症センターの忽那賢志(くつな・さとし)医師に聞きました。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

## 「女の気持ちをたずねて」

おんなのしんぶん  22日(月)



「くらしナビ」面で長年連載している「女の気持ち」に投稿した読者を訪ね、その後の様子などを描くコーナー。今回は、西部報道部の福岡賢正記者が、福岡市早良区の内匠良子さん(63)を取材しました。

昨年末、福岡記者の元に「発達障害がある子どもの未来は希望に満ちている。」という長いタイトルの本が送られてきました。著者は良子さんと夫の敬人さん。お二人とも40年近く、障害児にかかわる仕事をしています。著作名には経験から導き出された一つの「真理」が込められているようです。

## 当事者集い断酒の誓い

くらしナビ面 24日(水)

アルコール依存症など飲酒で健康を害したり、家族や社会に深刻な影響を与えたりする問題を解決しようと、国は10日、初のアルコール健康障害対策推進基本計画をまとめました。相談や支援、社会啓発などについて、行政が自助グループと連携を深めることが対策の一つとして盛り込まれました。東京都内のNPOが開催する自助グループ「断酒会」の活動を紹介します。



## アクリルアミドの減らし方

くらしナビ面 26日(土)



野菜や穀類などを高温で調理すると発がん性物質のアクリルアミドが発生します。内閣府・食品安全委員会は16日、健康影響に関して「懸念なしとは言えない」と評価結果をまとめました。農林水産省はアクリルアミドの減らし方講習会を全国で開き、「家庭内でできる範囲内で減らしましょう」と呼び掛けています。減らし方のポイントを紹介します。

## 不穏な時代の言葉

朝刊文化面 27日(土)

批評家の若松英輔さんが各界の識者で行う対談「理想のかたち」のゲストは、作家の吉村萬壺さんです。きれいごとでは済まない人間の生々しさを描いてきた吉村さんと、パリでのテロ事件などが相次ぐ不穏な時代を読み解きます。時代に抗する言葉の強さはどこから生まれるか、単なる反戦にとどまらない「非戦」を主張する意義は何かなどについて話し合います。

